

2025 年 CDP シティ スコアリング・イントロダク ション

CDP シティ・スコアリング基準

バージョン

バージョン番号	公開日/改訂日	改訂の要約
1.0	リリース日: 2025 年 6 月 9 日	2025 年 CDP シティ・スコアリング・イントロダクションの公開。

目次

バージョン	2
イントロダクション	4
スコアリングの原則	4
回答のスコアリング	4
その他のスコアリングリソース	5
CDP シティ質問書のスコアリング	5
高まるスコアリングの野心	5
スコアリングに対するアプローチ	6
スコアレベル	6
スコア配分	7
最終スコアの計算	7
必須基準	8
2025 年必須基準	8
スコアリング基準の理解	10
基準の構造	10
スコアリングアプローチ	10
比例スコアリング	11
最高行（最高スコア行）スコアリング	11
スコアリングルート	11
スコアに関する免責事項	12
フィードバックとサポート	12
Annex I - 利益相反方針	13
回答のスコアリングについての利益相反に関する方針	13

イントロダクション

スコアリングの原則

スコアリングは、CDP のミッションと整合します。CDP は、様々なステークホルダーと連携し、自治体が環境や天然資源への影響を開示して悪影響の軽減のための行動を取るよう促すことで、その実現を目指します。また、その行動を取ることの意義を重視します。CDP スコアリング基準は、公正な環境アクションを通じたレジリエンス構築とネットゼロのための自治体の移行を促進するように設計されています。スコアリングプロセスは、自治体にとって、気候変動対策および環境関連計画立案のためのフィードバックを得るための貴重な機会です。自治体は、スコアに基づいて気候変動対策の進捗を他の自治体と比較し、改善すべき分野を特定することができます。

CDP は、質問書内の各質問がどのようにスコアリングされるかについて定めたスコアリング基準に基づいて回答を評価し、環境スチュワードシップの促進における進捗状況を評価します。スコアリング基準は、回答組織にとってベストプラクティスを達成するためのロードマップとなります。ベストプラクティスに合わせて毎年スコアリング基準を作成/改訂することで、CDP は環境パフォーマンスの向上にむけた行動変革を促したいと考えています。

スコアリング基準は、回答の詳細度と包括性、環境課題に対する組織の認識、管理方法、環境スチュワードシップに向けた進捗を評価します。CDP は透明性を重視しており、そのために完全なスコアリング基準をオンラインで提供しています。

回答のスコアリング

自治体にご提出いただいた回答のスコアリングは CDP のスコアリングチームによって行われます。このチームがスコアリングを実施し、データの質の確認と検証を行うことでスコアリングの水準を担保します。自治体の気候変動対策と環境アクションを正確に反映するスコアを受け取るためには、できるだけ質問書に完全に回答することが重要です。CDP は、自治体による個々の回答に含まれる情報を検証しません。スコアリング基準で明記されていない限り、CDP への回答以外の情報はスコアリングプロセスの一部として考慮されません。

CDP は、回答組織から CDP に提供された回答データに基づいてスコアリングします。CDP は、個々の回答に含まれる情報を検証しません。CDP への回答以外の情報は、スコアリング基準で明記されていない限り、スコアリング対象とはなりません。CDP への回答内で提供される Web リンクまたは添付ファイルも、スコアリング基準で明確に要求されていない情報の場合は、スコアリングの対象にはなりません。

自治体が A スコアを取得した場合、スコア通知後に CDP への回答に記載した情報が公開される可能性があります。そのため、自治体には、完全かつ正確に現在の状況をできるだけ反映した情報を提供することが推奨されます。スコアは非公表ですが、CDP は国際的メディアキャンペーンを通じて、気候変動対策のリーダーシップを示す A スコアを取得した自治体を表彰します。

CDP は、すべての言語で提出された回答をスコアリングします。英語による回答は A リストに選定されるための必要条件ではなく、回答の提出言語が自治体のスコアに影響を及ぼすことはありません。

その他のスコアリングリソース

本書は、2025 年の CDP シティ・スコアリング基準、CDP シティ質問書、報告ガイダンス、シティ・ハイレベル基準と併せてご活用ください。報告ガイダンスは、質問書に回答する際に考慮すべき要素を説明します。スコアリング基準は、回答者が報告ガイダンスに沿ってデータを提供することを前提に策定されているため、報告ガイダンスに記載された指示に従ってデータを報告することが重要です。

CDP シティ質問書のスコアリング

質問書は、Race to Zero (レース・トゥ・ゼロ)、Race To Resilience (レース・トゥ・レジリエンス)、ICLEI イニシアチブ、世界首長誓約、NetZeroCities といった、国際的なイニシアチブやネットワークに整合しています。CDP-ICLEI Track に報告することで、自治体はこれらのイニシアチブのコミットメントを満たすことができます。さまざまな自治体の状況を反映して報告を簡素化するために、質問書には三つの経路があります。これにより、すべての自治体向けの質問一式に加えて、関連性があり有益な場合のみに用いる追加の質問に対する報告も可能になりました (C40 参加自治体には標準質問書が提示されます。そのため、質問書の経路は C40 参加自治体には適用されません)。

2025 年スコアリング基準では、経路 1 に含まれる質問のみが評価されます。これらには、すべてのパートナー組織から求められるデータポイントが含まれます。そのため、すべての自治体と同じデータポイントに関して同じ採点基準でスコアリングされます。経路 2 または経路 3 で表示される追加のデータポイント/質問、またはプロジェクト固有のデータポイント/質問は、スコアリングの対象となりません。そのため 2025 年の CDP スコアは、ガバナンス、評価、計画立案、対策/行動の分野での気候変動の緩和および適応に関する主要な質問 (セクター指標を含む) における行動を反映します。

高まるスコアリングの野心

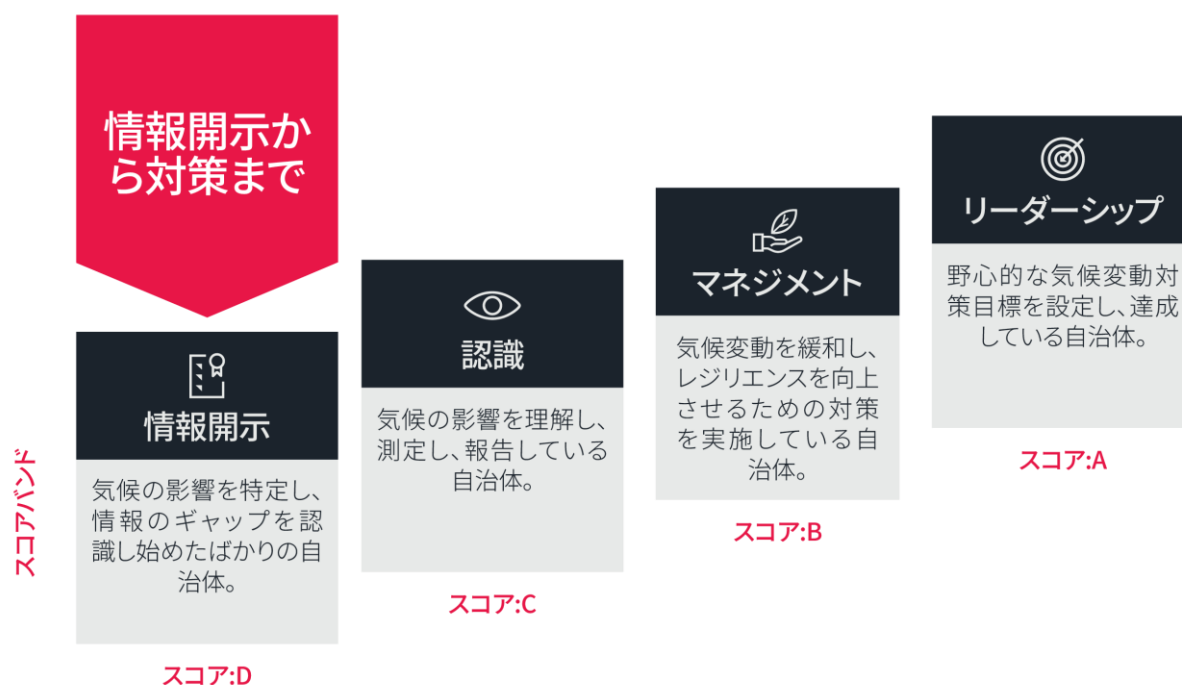
2025 年の質問書は最小限の変更がされ、スコアリング基準もそれらの変更を反映した最小限の更新がされましたが、気候変動による最も壊滅的な影響を回避するため、地球温暖化を産業革命以前のレベルから 1.5°C の上昇に抑えるという最重要課題に引き続き整合しています。2025 年のスコアリング基準は、科学に基づく目標 (SBT) の重要性を引き続き強調し、自治体が気候関連のハザードに対処する目標を設定し、これらの目標に向けた進捗を追跡することを奨励しています。

スコアリングに対するアプローチ

スコアレベル

気候リーダーシップに向けて前進するための自治体の進捗段階を表す4つのスコアバンドをもって自治体の回答を評価します。スコアバンドは次のとおりです:

- **情報開示(D-または D):**情報開示スコアバンドの自治体は、気候変動とその影響を削減する重要性を理解し報告する道のりを開始したところです。これらの自治体は気候変動対策を推進するためのデータ収集の価値を理解していますが、必要な情報を得るための構造またはリソースが整っていない可能性があります。情報開示スコアバンドの自治体は、気候変動の影響とリスクの測定状況に関して報告しています。
- **認識(C-または C):**認識スコアバンドの自治体は、気候変動の主なリスクと影響を評価中です。これらの自治体は、気候変動が自治体に及ぼす主な影響の包括的な理解のために、評価の実施と影響の測定を開始しており、それらを削減する対策/行動を講じ始めています。
- **マネジメント(B-または B):**マネジメントスコアバンドの自治体は、気候変動の主なリスクと影響に関するデータを収集および管理し、これらの影響に適応し、削減する対策/行動を講じています。これらの自治体は、リスクと影響を理解するために主要なステークホルダーと協働しており、緩和および適応するための計画を現時点で策定済みです。
- **リーダーシップ(A-または A):**リーダーシップ自治体は、適応と緩和の両方におけるベストプラクティス基準を示し、野心的な目標を設定し、その目標達成に向けて進捗しています。リーダーシップスコアバンドの自治体には、戦略的で包括的な計画があり、講じている対策/行動が、自治体の人々、企業、組織に対する気候変動の影響と脆弱性を削減することを確実にしています。



スコア配分

最終スコアの計算

スコアリング基準に従い回答がスコアリングされると、スコアレベルごとのパーセンテージスコアが計算されます。その結果に応じて「A」から「D-」までのスコアが最終的に付与されます。各レベルに二つのスコアがあり、各スコアレベルにおける採点ポイントの達成割合（パーセンテージ）に基づいて割り当てられます。

質問書のすべての分野における完全な情報開示と一貫した進捗を奨励するため、次のスコアレベルのスコアリング対象となるために、まず該当するスコアレベルでの最低要件を満たす必要があります。これは、あるレベルで一定のスコアを取得すると、その上のスコアレベルに進むという、閾値に基づくスコアリングシステムにより実現されます。必要とされるスコア閾値に達しない場合、組織の最終スコアは一つ前のレベルとなります。このアプローチにより、分野によるパフォーマンスのばらつきがなくなります。

CDP は、スコアレベルの向上に必要な暫定閾値を事前に設定しますが、スコアレベル分布が、全ての回答組織の現在の進捗レベルを反映するものとなるよう、スコアリング期間中に閾値を見直すことがあります。CDP は、スコア通知前のいかなる時点においても、閾値を調整する権利を有します。

レベル	閾値	スコアレベル
情報開示	1～44%	D-
	45～79%	D
認識	1～44%	C-

	45～79%	C
マネジメント	1～44%	B-
	45～79%	B
リーダーシップ	1～59%	A-
	60～100%	A

必須基準

次のレベルに進むためには、該当するスコアレベルで必要とされるスコアポイントを付与され、必須基準を満たす必要があります。特定のスコアレベルにおいてスコアを取得するためには、必須基準を満たしている必要があります。該当するスコアレベルにおいて必要な閾値を越えたスコアポイントを取得しても、必須基準を満たしていない場合にはそのレベルのスコアは付与されません。具体的には、認識、マネジメント、リーダーシップのスコアバンドには、それらのバンド内でスコアを付与されるために満たさなくてはならない必須基準があります。

その他の基準が満たされているかどうかに関わらず:

- 認識スコアを取得するには、認識レベルに必要な全ての必須基準が満たされている必要があります;
- マネジメントスコアを取得するには、認識とマネジメントの両方のレベルに必要な全ての必須基準が満たされている必要があります;
- リーダーシップスコアを取得するには、認識、マネジメント、リーダーシップの全てのレベルに必要な全ての必須基準が満たされている必要があります;
- A スコアを取得するには、認識、マネジメント、リーダーシップの全ての必須基準に加え、A リストの必須基準が満たされている必要があります。

自治体の実際の計画立案と対策/行動を正確に反映するスコアを取得するため、2025 年シティ質問書の回答を提出する前に、必須基準とされる文書がすべて添付されていることを確認してください。添付文書は 2024 年度の回答からコピーされないため、スコアリングで考慮されるために文書は再度添付し直す必要があります。

2025 年必須基準

今年は必須基準に変更はありません。

認識レベルの必須基準

C-または C のスコアを得るための必須基準は次のとおりです:

- 質問 2.2 で気候ハザードを報告する

マネジメントレベルの必須基準

- B-または B のスコアを得るための必須基準は次のとおりです:
- 質問 2.1 において、少なくとも今後 2 年以内に気候リスクと脆弱性の評価に取り組む意図があると回答している

- 自治体の区域全体の排出インベントリ（排出量データ）があり、質問 3.1.1 でそのインベントリを添付しているか、ウェブリンクを記入している
- 質問 8.1.1 で緩和または適応に対処する気候計画、または単独の緩和計画、または単独の適応計画があると報告し、且つ計画を添付しているかそのウェブリンクを記入している
- 質問 9.1 で適応策を少なくとも一つ報告し、且つ、質問 9.2 で緩和策を少なくとも一つ報告している

リーダーシップの必須基準

A-のスコアを得るための必須基準は次のとおりです:

- 気候リスクと脆弱性の評価があり、質問 2.1 で評価を添付またはそのウェブリンクを記入している。
- 質問 5.1.1 で適応目標を完全に報告している
 - 「完全に報告している」とは具体的には次のように報告している必要があります: 適応目標、目標が対処する気候ハザード、目標の達成目標年がすべて回答され、将来の目標年を報告している（過去の目標年のものを報告していない）。
- 質問 6.1.1 で排出量削減目標を完全に報告している
 目標の種類が基準年排出量(総量)、基準年原単位、またはベースラインシナリオである場合:- 「完全に報告している」とは次のように報告している必要があります:
 目標の種類、自治体の区域と比べた目標の対象区域、目標を達成するために現在活用中または活用される予定の炭素クレジット、基準年、目標年、排出量の削減割合、目標年の実質排出量、をすべて報告し、将来の目標年を報告し(過去の目標年のものを報告していない)、自治体の区域と比べた目標の対象区域が「同じ」または「大きい」と報告している。

 目標の種類が固定水準である場合:- 完全に報告しているとは次のように報告している必要があります:
 目標の種類、自治体の区域と比べた目標の対象区域、この目標を達成するために現在活用中または活用される予定の炭素クレジット、目標年、目標年の実質排出量をすべて報告し、将来の目標年を報告し(過去の年になっていない)、自治体の区域と比べた目標の対象区域が「同じ」または「大きい」と報告している。
- 質問 8.1.1 で適応と緩和の両方に対処する統合気候計画、または単独の緩和計画と単独の適応計画の両方があると報告し、計画を添付しているかそのウェブリンクを記入している

A リスト必須基準

A スコアを付与されるための必須基準は次の通りです:

- 気候変動の最悪の影響を抑えるための最新科学に整合した目標を報告することで、目標設定におけるリーダーシップを示している。科学に基づいた目標は、長期的(2050 年まで) ネットゼロ目標と、地球温暖化を 1.5°C に抑える公正な分担に整合した中期的目標の両方、または 2030 年までのネットゼロ目標を報告している。
- 添付する気候リスクと脆弱性評価が、特定の一つの気候リスク評価に限定された評価文書ではなく、自治体に影響する**すべての**潜在的な気候リスクが評価されている評価文書である。

- 添付する排出インベントリ（排出量データ）に、区域内の排出量の明確な内訳とそれぞれの排出源が記入されている。
- 添付する気候行動計画に、適応計画と緩和計画の両方が明確に含まれている。
- 回答を「公開」提出する

今後、添付資料に関する基準が厳格化する可能性もあります。

スコアリング基準の理解

基準の構造

スコアリング基準は、各質問における、4つのスコアレベル別の具体的な採点基準とポイント配分の詳細を示します。採点基準は、それぞれのスコアレベルにおいてポイントを付与されるために満たす必要のある条件の詳細を示します。ポイント配分表には、各スコアレベルについて取得可能な最高ポイント数が示されています。各スコアレベルには[得点]列と[配点]列がそれぞれあります。配点列は、各スコアレベルの最高ポイント数を示します。

得点列は、各スコアレベルでの最高ポイント数のうち、取得可能なポイント数を示します。取得可能な得点と配点は通常同じですが、回答者がそのレベルで規定されるすべての基準を満たしても、関連する条件を満たしているかどうかにより、配点すべてを取得することができない場合があります。

所定の質問に対する情報のみが、各質問のスコアリングに用いられます。他の質問に対する回答での記述内容は、スコアリング基準に明記されている場合を除き、該当質問のスコアリングプロセスには考慮されません。[コメント]欄に追記された文の内容はスコアリングの対象となりません。

無回答の場合、該当する質問または付随する質問に付与される最高スコアポイントに対して得られるスコアが「0」になります。特定の重要なデータポイントの場合、無回答の質問には、その質問の配点の最高ポイントに対して得られるスコアが「0」になることがあります。これらの重要データポイントは、採点基準において明示されています。

スコアリングアプローチ

ポイントを付与するアプローチは質問によって異なり、回答者は、回答作成の際、ポイントの配分方法を理解するためにスコアリング基準を十分確認してください。

一部の質問については、その質問で取得可能な最高ポイントを上限として、得点またはその一部が累積して付与されます。その他の質問では、ポイントを取得するには、求められるすべてのデータポイントについて回答する必要があります。後者については、回答欄を空白のままにしたり、必要なデータを提供しなかったりすると、当該質問についてのスコアが「0」となります。原則として、別途明記されていない限り、「コメント」欄に記載される内容はスコアリング対象とはなりません。

複数のデータセットが必要な場合(表を埋めるために複数のデータが必要な場合など)、さまざまなスコアリングアプローチが使われます。提供されたデータのすべてについてスコアリングされる場合もあれば、特定の行のみスコアリングされる場合や、最も良い行のみスコアリングされる場合もあります。

比例スコアリング

情報開示されたデータの量に比例してスコアが付与される場合があります。比例スコアリングは、報告される情報の量が回答者によって異なる可能性のある質問に用いられます。比例スコアリングでは、表内に提供される情報の量に比例してポイントを付与することで、情報開示対象の全ての情報が報告されることを奨励します。ポイントは、表内で記入されたセルの数または表内で記入された列の数に比例して付与されます。シティのスコアリング基準では、セルによる比例スコアリングのみが用いられます。

比例スコアリングの種類	採点基準
表内で記入されたセルの数による比例スコアリング。一つの列のみ、または複数の列がスコアリングされる場合があります。	表示されたセルの数に比例して、記入したセルごとにポイントが付与されます。 「この質問では最高 X ポイントを取得できます。」と記載されます。

最高行（最高スコア行）スコアリング

回答が記入された行のうち、特定の一つの行のデータのみがスコアリング対象となる場合があります。最高行スコアリングは、回答が不完全な場合や、記載されたすべての内容が採点基準に定められたベストプラクティスを満たしていない場合でも、質問に対して総合的な情報を提供することを可能にします。従って、最高行スコアリングは、行動、プロセス、目標の記載のみで評価が可能な質問で使用されることが殆どです。

最高行スコアリングが該当する場合は、採点基準において「最高スコア行」と示されます。これらの質問では、すべてのスコアレベルにおいて最高得点を取得する回答行で取得したポイントが付与されます。各スコアレベルは連続的に評価されます。たとえば、特定の回答行において、情報開示ポイントと認識ポイントは全ポイントを取得したがマネジメントポイントはゼロである行は、情報開示レベルのポイントを部分的にしか取得していないが認識レベルは全ポイントを取得した行よりも高いスコアになります。

スコアリングルート

CDP 質問書には複数のルートが含まれているため、特定の環境課題分野における質問の回答内容により、次に表示される質問が異なる場合があります。質問ルートの選択により、回答自治体に示される質問数が変わることがあり、それに応じてスコアの配点も変わります。ほとんどの質問に[はい]と回

答した自治体は、[いいえ]を選択した自治体と比べ、一般的に高い配点が設定されます。ただし、異なる質問ルートによる影響を標準化するため、スコアはパーセンテージを計算した結果に基づいて付与されます。具体的には、得点として取得したポイント数を、選択された質問ルートに基づき取得可能な総ポイント数で割って計算した結果に基づき、最終スコアが付与されます。回答自治体に関連しないために質問数が少ない場合でも、そのことがスコアリングにおいて不利になることはありません。

スコアに関する免責事項

CDP スコアは、CDP への回答において開示された活動や戦略等の情報に基づいて付与されます。スコアは、組織の持続可能性や「グリーン性」のレベルの総合指標や環境フットプリントの具体的な指標ではなく、むしろ報告年度における環境関連の問題から生じる影響とそれらの問題に組織が及ぼす影響の評価と管理のために講じた対策のレベルを示すものです。

本年度スコアがどのように付与されるかを回答自治体に示すために2025年CDPスコアリング基準を公開しました。ただし、CDPは、新たに生じるリスクに対する管理戦略やベストプラクティス、回答データの質、スコアリング結果に基づいて、スコアリング期間前および期間中に質問の基準や重み付けを調整する権利を保持します。

フィードバックとサポート

スコアについてのフィードバックを希望する場合、またはCDPのスコアリング基準についてご質問がある場合はCDP日本事務局にお問い合わせください。一般的なご質問は、[CDPのヘルプセンター](#)もご確認ください。

Annex I - 利益相反方針

回答のスコアリングについての利益相反に関する方針

CDP が提供する情報の独立性、質、完全性を維持することは、CDP のミッションにとって重要です。したがって、CDP では、スコアリングプロセスの客観性を脅かす可能性のある潜在的な利益相反のリスクを軽減するための包括的な対策を講じています。

組織全体の管理

すべての CDP 職員は、雇用条件として CDP の利益相反方針を遵守することが求められており、意思決定プロセスに何らかのレベルで関与する職員は毎年利益相反に関する申告書を提出し、その申告書が最新の情報を反映していることを確認します。このプロセスを通じて特定された潜在的な相反事項がある場合は管理され、CDP が提供するスコアやより広範なデータセットの独立性に脅威を与えないよう、適切な対策や制御が実施されます。スコアの最終確認および承認に関与するスコアリング担当者に、情報開示者と潜在的なつながりまたは利害関係がある場合、該当する担当者はその情報開示者のスコアリング担当から外されます。

スコアリングプロセスを担当するスコアリングチームは、CDP の Commercial チームから完全に独立しており、Commercial チームのリーダー/管理職の指示に応じることはなく、CDP のデータを利用する組織および CDP に情報開示する組織との関係に直接関与したり、それらを把握したりすることは一切ありません。

CDP の職員または CDP の取締役会メンバーが、スコアリング結果に影響を与えようとしたり、スコアの計算においてスコアリング基準の適用に一貫性と公正性が欠ける行為を奨励しようとしたりという状況が確認された場合は、重大な不正行為とみなされ、即時解雇の対象となります。

スコアリング基準の作成

CDP のスコアリングチームおよび情報開示コンテンツチームは、CDP の Thought Leadership チームからの意見を反映させながら、CDP のスコアリング基準を作成しています。この基準は、堅固な環境科学に基づいており、関連する環境基準や枠組み、そして意思決定に欠かせない質の高い環境情報の活用を促進するという CDP のミッションと整合しています。Thought Leadership の専門家による精査を含む広範な審査プロセスを経て、すべての基準は一般に公開されてスコアリングに使用される前に、スコアリングチームの責任者の承認を受けます。スコアリングチームの責任者は、スコアリング基準公開される前に、必要なすべての審査が完了し承認されていることを確認する最終責任を負います。

スコアリングプロセス

CDP のスコアリングチームは、スコアリングプロセスの責任を負い、その責任範囲はスコアリングパートナーである Incite Insight のトレーニングや、スコア公表前の検証作業を含みます。スコアリングプロセスの公平性と信頼性を確保する最終的な責任は、スコアリングチームの責任者にあります。ス

コアリングチームは、必要に応じて他の CDP チームに特定の支援(例：質問書への回答に含まれる検証に必要な情報の翻訳)を依頼することがありますが、スコアリングの判断には他のチームや職員は一切関与しません。公開されているスコアリング基準を一貫してかつ客観的に適用することのみに基づいてスコアリングが行われます。CDP のスコアリングシステムおよび未公表のスコアにアクセスできるのはスコアリングチームの職員のみで、スコアリングチームの職員は CDP に提出された開示情報やデータをいかなる方法でも変更することはできません。

すべてのスコアが、提出された開示情報に対してスコアリング基準を客観的かつ偏りなく適用した結果に基づくものであることを保証するために、質を保証する強固なプロセスが設けられています。すべてのスコアは、情報開示者への通知および一般公表に先立ち、スコアリングチームの責任者による最終承認を必要とします。また、すべてのスコアの整合性を確保する最終的な責任は、スコアリングガバナンス委員会が負います。

CDP は外部組織である Incite Insight が「契約スコアリングパートナー」として、開示された情報を CDP のスコアリング基準に基づいて評価するプロセスをサポートしています。Incite Insight は、CDP のトレーニングプログラムを完了し、CDP のスコアリング基準の適用における一貫性と客観性を確保するための適切な内部の質の保証プロセスが整備されていることが確認されたうえで、スコアリングパートナーに選ばれました。Incite Insight が準備したスコアは、公表される前に CDP 内部のスコアリングチームに提出され、質の最終確認が行われ承認されます。

スコアリングパートナーである Incite Insight は、スコアリング業務を開始する前に、利益相反に関する申告書を CDP に提出することが求められます。この申告書では、サンプルの中に Incite Insight の顧客または競合他社が含まれるか、または Incite Insight(または同社の上級管理職)と潜在的な利益相反を生じさせる可能性のある関係性のある組織が含まれていないかを開示するよう要請します。サンプルに含まれる組織のいずれかがそのような利益相反に該当する場合、その組織は Incite Insight によるスコアリング対象のサンプルから除外され、CDP のスコアリングチームによりスコアリングが行われます。

上記で述べた質の保証の管理に加え、CDP と Incite Insight の間で締結された契約は、スコアリング基準の完全に公正かつ客観的な適用以外のいかなる行為も明示的に禁止しており、これらのコミットメントを遵守しなかった場合は、提供されたサービスに対する支払いを行わず、直ちに契約を解除することに加え、法的措置を講じる事由となります。